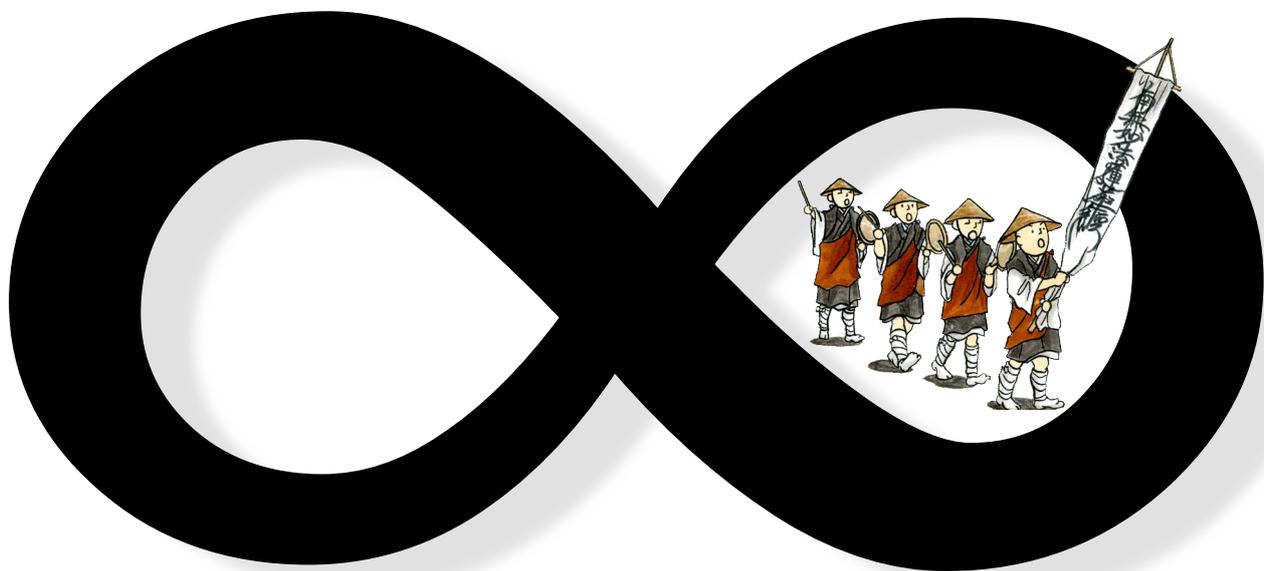


第54回



全国日蓮宗青年僧 北海道結集札幌大会

『題字・身延山久遠寺第九十二世 内野日総 書』



北から始まる原点回帰

～若き力は無限大～

平成28年5月16日(月)・17日(火)

主催：全国日蓮宗青年会 / 担当：日蓮宗北海道ブロック青年会



日蓮聖人 降誕八〇〇年

◇ 大会趣旨 ◇

時は明治。北の大地に開拓使が足を踏み入れてより約150年の歳月が流れました。当時、まだ御題目信仰の根付いていない北海道に、先師達はどのような思いで、またどのような伝え方で、祖願である『一天四海 皆帰妙法』の御題目信仰を弘通していったのか。

先師達の計り知れない御苦勞と熱き信心の魂により、荒れた広野に妙法の種を植えるが如く、北海道の開拓と御題目の弘通は徐々に広がり現在へと至ります。

開拓当時は、現在と比べて不便な交通状況であった為、この広大な土地においても伝道布教の原点は唱題行脚であったであろうと推測します。

現在に生きる我々北海道の青年僧は、開拓の先師達の志を継承して唱題行脚という原点に帰り、初めて御題目をこの北の大地に響かせた瞬間を感じて、改めてこれからの未来への御題目弘通を誓う事。これこそが我々青年僧がなすべき実践布教であり、開拓の先師達への報恩であると考えます。

「北から始まる原点回帰 ～若き力は無限大∞～」

今大会はこの言葉をテーマとして掲げ、全国の青年僧の皆様と共に北海道開拓の先師の御霊(みたま)を心に宿した唱題行脚を行います。先師達から脈々と受け継がれる伝道布教のエネルギーが計り知れない功德となり、我々青年僧の未来に無限大の可能性を与えて下さるはずです。

今回の結集にご参加頂いた各聖が各地へお戻りになられた後も、きつとこの北海道結集で、ご縁を結ばせて頂ける北国開拓の先師先哲の熱き信心の魂が伝道布教の御助力となり、地元の地域や管区のみならず、ひいては祖願『一天四海 皆帰妙法』の成就へと導いて下さるものと思います。

この北の大地隅々に届くが如く、大音声の御題目を響かせましょう！

日蓮宗青年僧ここにあり！



∞ 大会要項 ∞

日 時：平成 28 年 5 月 16 日(月)午後 1 時開会～17 日(火)

16 日正午より受付開始

会 場：札幌パークホテル 〒064-8589 北海道札幌市中央区南 1 0 条西 3
TEL：011-511-3131

参加費：1名 18,000円(宿泊費は含まれておりません)

※ 宿泊は各自にて御手配下さい。

持ち物：布教服・折五条・数珠・行脚道具一式・雨具

※ 団扇太鼓をご持参下さい。予め札幌パークホテルへご郵送して頂いても構いません。

－ 日 程 －

- 【1 日目】 12：00 受付 ※ 開会式には行脚の衣帯での出席をお願いします。着替え用の控室を用意しておりますので、着替えを済ませてから開会式場にお集まり下さい。(着替え用控室 3 階高砂)
- 13：00 出発式(3 階パークホール A)・出発式
- 13：30 写真撮影
- 14：00 行脚開始(パークホテル出発)
- 16：30 行脚終了(予定)
- 17：00 パークホテル到着(着替え・宿泊先にチェックイン)
- 18：30 懇親会(3 階パークホール C)
-

【2 日目】 9：00 代表者会議・総会(3 階エメラルド)

11：30 解散



－ 行 脚 内 容 －

大会参加者を4つの班に分け、各班それぞれパークホテルよりバスにて札幌市内の4ヶ寺に移動して頂きます。各班毎に会場寺院を中心とした1時間程度の行程で唱題行脚を行い、会場寺院に戻って終了となります。

行 脚 会 場 寺 院 紹 介

妙文山 瑞玄寺 住職伊藤 美妙上人 〒060-0909 札幌市東区北9条東3丁目1-10

札幌最古の靈刹、元町妙見山本龍寺の中興開山瑞龍院日玄上人が遷化の時、幼少にして師父の継承が出来なかった伊藤日瑞上人が苦修錬学の後、新寺を開創し師父法緯を寺号として苦節追考、春秋風雪と闘い、布教に努めて建立した追考の寺院である。

日瑞上人は、現在地の近くに六条一間を借り布教に着手し、昼間は托鉢撃鼓、夜は求道同心の人々を集め

て徹夜日蓮主義を解き明かし、人々は合掌礼拝してその来錫を心待ちにし、遂に地域念願の本堂庫裡を建立した。初心不忘の開拓布教と大荒行での加行後の修法教化により、檀信徒は倍増を重ねていった。更に岩手県智恩寺・札幌本龍寺・千葉昌柏寺を歴任し復興に励み、その後に京都本圀寺六十三世となり、大本山の復興を達成した。二世瑞法上人は瑞玄寺興隆の陰の力となって日瑞上人を補佐し、三世瑞叡上人は千葉昌柏寺三十四世として転寺、四世善妙上人は開山上人の意思を継承し檀信徒の教化育成に励み、加歴五世瑞雄上人は善妙上人を助け寺観の荘厳整備に貢献する。六世は現住職美妙上人であるが、尼僧会の会長を務めるなど開山上人の熱き思いは今もなお踏襲されている。



豊葦山 妙心寺 住職若松 宏泉上人 〒064-0811 札幌市中央区南11条西9丁目738



昭和三十二年に、松法院日泉上人によって開創された。日泉上人は幼少の頃殆ど物の見えない状態であったが、日泉上人の母が日蓮大聖人に救いを求められた。そしてその願いが通じ、日泉上人は物が見えるという靈験を頂いた。

その後、上人は信仰を深め三十二歳で出家され、以来大本山法華経寺に於いて修行を重ねられた。その修行は貫首宇都宮日綱猊下の認めるところとなり、北海の地に更なる法華経の教えを弘める事を託され、

大本山法華経寺の常唱堂に奉られていた日蓮大聖人の尊像を賜り、現在北海道の有形文化財になっている。その後函館・札幌・室蘭と三カ寺を開創、その功績が認められ大本山法華経寺北海道別院の許可を賜り、法華経の道場として多くの檀信徒の信仰を集めている。



行脚会場寺院紹介

経王山 光明寺 住職田中文教上人 〒001-0907 札幌市北区新琴似7条1丁目2-52



明治初期、北海道開拓の為に来住した、札幌屯田兵第三中隊は九州方面の者多く、清正公を奉祀していた。明治二十五年、石橋日来師が新琴似六番通り東方に一草庵を結んだ。明治三十五年、家田日融師がこの後を受けて来村し日蓮宗新琴似布教所とした。

この布教所の信徒である野間鹿槌以下の面々が、当山開山である田中耀運上人に、苦難を忍んで頂ける

なら一堂を建立するので、この地に永住して欲しいとの懇請があった。田中上人はこれを承諾し、寺院建立の為に浄財を求めて、道内や遠くは関東方面まで布教行脚し、現在地に一千坪の境内地を取得し、八間四面の本堂を完成した。明治四十年に経王山光明寺と寺号公称した。

更に同年九月十七日総本山身延山久遠寺法主豊永日良大僧正猊下の御来臨を仰ぎ、盛大な落慶大法要を厳修したのである。

二世田中文誠上人は、師父のあとを受けて更に光明寺の基礎確立に努力したが、大東亜戦に応召となり、三十五歳にして満州の曠野にて戦死された。以来十八年余り住職なき儘に過ぎ、昭和三十九年に三世田中文教上人が勉学修行を卒えて住職となる。

儀徳山 日登寺 住職佐藤光則上人 〒063-0002 札幌市西区山の手2条1丁目1-39

「寺院建立は開拓の邪魔」「寺を建てるならその金で道路の一つでも拓いてみよ」等といった北国開拓の時世、宮城県小田村（現角田市の一部）から入地した法華経の熱心な信者であった東山源八郎一家が奉持した清正公像。先にこの地に住していた法華経信者の信仰対象となる。この清正公像を祀る参詣堂を熱心な信者の支えの下、建立したのが明治八年。これが日登寺の開創である。



山門には道内随一の大きさを誇る仁王像が勧請されており、「仁王さんのお寺」と地域の人々から親しまれており、また門前の道路は交通量が多いにも関わらず事故が無い事から「交通安全のお寺」とも呼ばれる。

また、行脚の途中には「琴似屯田兵村兵屋跡」があり、北海道有形文化財に指定されており、当時の開拓使時代の形態を現代に伝えている。



— 参加申込方法 —